

渡辺れいは新潟島に住んでいます。天保時代におきた唐物抜荷事件で幕府に上知されるまで、皆様もご存じの通り、この島は長岡藩の飛地でした。わずか六百石の飛地からあがる湊の仲金(すあい)は二万両を超えたと言われています。長岡藩には他に二つ組があったようなものです。藩はこの町に奉行職二人と幾人かの役人を赴任させました。統治のためというよりは仲金の管理が主な目的だったようです。ちなみに宝暦と文化年間に二人の河井代右衛門の名が記録されています。奉行所は旧三越デパートとNEXT21にまたがる場所がありました。西堀のすぐ脇です。奉行所の両隣は寺町でした。堀を挟んだルフル(旧大和)から



古町6番町にあった「くし清旅館」 写真提供 若林修一氏

新潟の町にやって来ます。浄泉寺や勝念寺、正福寺といった奉行所に近い寺々に分宿します。つまりは町中です。町民は恐れました。そこへ突然継之助が現れ、隊長の古屋作左衛門とくし清旅館で談判に及び、隊を町から退かせました。恐らくスネルとの武器取引への支障を説いたのでしょうか、なんともかっこいい話です。



渡辺 豊(わたなべれい)  
1961年新潟市生まれ  
「最後の決断」「維新の墓標」など著書多数。

改めまして、渡辺れいと申します。一昨年の暮れに、友の会の会員にさせていただきました。これからもうかよろしくお願い申し上げます。

## 初めまして、渡辺れいと申します

作家・歴史家 渡辺れい

下にかけての地域は花街でした。寺と花街は西堀を挟んで向き合っています。

会報  
峠  
とうげ

河井継之助記念館  
友の会会報

第39号

2026.3

戦場

〈編集・発行〉  
河井継之助記念館友の会  
新潟県長岡市長町1丁目甲1675-1  
〒940-0053  
Tel.0258-30-1525  
Fax.0258-30-1526

〈編集人〉  
荒木法子 恩田富太  
三条雅美 棚橋智仁  
山田明 友の会事務局  
〈構成・印刷〉  
高速印刷株式会社

ました。梵鐘と三味線の音が堀の上で合わさっていたことでしょう。さしずめ線香が取り持つ縁といったところでしょうか。

渡辺れいは長岡とのご縁を強く感じています。思えば新潟市民文学賞

は長岡藩士二人が風荒ぶ広小路の一膳飯屋で斬り合い寸前にまで至る様子を描いた「あがり屋」という小説でした。そして第二〇回新潟日報文学賞を頂いた「峠」は江戸時代の栃尾が舞台です。峠とは森立峠の出来事をさします。当時住んでいた末広のアパートから東山の稜線を眺めながら数日で書き上げた小説でした。長岡を舞台に長岡で書いた思い出深い短編です。

さて継之助です。幕末、衝鋒隊が

隣にある東忠に籠り、出入りする馬の蹄の音に耳をそばだて、恐らくは、来るはずのない山縣を待っていたのでしょうか。来ないと分かっていたながら、なおも野七に移ってまんじりと

もせず一夜を過ごし、陽が昇ってようやく去る決心をしたのだと思います。まだ小千谷に居ると知れば殺されるかもしれない危険に身を置きながら、それでもなお長州の変心に自身の思惑とは別の、かすかで、わずかな望みをかけたのは、この土壇場で、やはり戦を避けたいと思ったからでしょう。会津への義、長岡に住む者たちへの思い、その板挟みの姿に、この人の義の熱さを感じるのです。自分はこの人がたまらなく好きなのだと思えます。

特別展示

「河井継之助が小山良運に宛てた書状」紹介

本年度当館で公開した継之助が良運に宛てた書状を先号に引き続き五通紹介します。

●六月十六日の書状

過刻者難有昼之中

度々廁行いたし候得共

或ハ難堪艱苦半途帰

或ハ小用すら痛之ため

快通いたさる位昼後より格別

難儀ニ御座候ハて歎息いたし

昼飯少し給候故夜食ハ

食心ニ而強腹まきれニ

どぢやウ汁ヲ給催之氣味

故又々参り候処始ハ大ねんぼう

如此頃末ハ竹箒之様ニて

下劑之驗歎固らず扱々

安心難有事ニ御座候

終りて廁ヲ出はいつくばい

候処江三間来訪当十二日

殿様御用召長州服罪

不致ニ付弥御征伐

公方様芸州江御出馬有之故

御供被仰付候旨即刻立御飛脚

只今到着之旨ニ御座候

通してへ阿れハ直飛脚

可差上と奉存候処五ツ時迄ノ

中なら

●五月二十二日の書状

小山様

河井拜

蒸劑委ク失念今日差上候

亜西亜之北方夏霖雨之

處ありとあれハ無據ケれ共

實ニ御同苦ニ御座候扱又昨日ハ

下手ニすると御使が来ると云居ながら

終御使ヲ勞し候ハ恐縮く

朝武草三間参り昼迄前後

したが朝飯も給ぬ中ニ河喜か

来り面白なき事申居やツと歸せし

處江右之仕合久々延引いたし候得共

碁盤被寄相始終ニ打勝天

琥珀ヲ一木取ニ至り其餘波

午睡

暮後三間と猶又相始候次第

併戦ハ前後で五六右ニ障り候様

之事ハ不仕候餘り申訳も恐入候得共

如何ニも罪難逃不惡御承知願上候

三間歸而蒸劑ヲ始メ而葉名ヲ

思付允御葉金一日分餘計ニ

相成候故もありて此等閑ヲ引出セリ

誤リハ是ニて止御使歸り直通し

○

●五月二十七日の書状

小山様

河井拜

十兵衛より先頃之縁之ツリ百文遣候

則為持上候御葉箱之中江

昨朝も難有思之外客も少

午睡十分七ツ頃より花三両子

被参候ぎり通しも追日宜大慶

奉存候夜少し考慮仕候故歎

九鼓過迄不安眠乍去別段障りも

無之候何れ考ハ毒ニ而小道具

之世界ニ可為事仁兄之所謂

急性痛ハ御關係なき之詛歎

併小生ハ未中リハ不仕故さつぱり

止る心ニも不被為歩行も追而宜

今日又雨退屈日と被案候只々

ラ川々之測々江釣ヲいたし度夫而已

心懸居候得共致方も尽自分

在来之箱でも可出自是

蒸劑乍御六ヶ敷御葉願上候

五月廿七日

頓首

ツキ

○

●六月六日の書状

小山様

河井拜

扱々雨湿歎息仕候仁兄ニハ

御障りハなきや小生昨午睡後

通し有之候少し例よりハ硬

相応ニリキミテ出尽候次第昨日

之無通昨通後少し痔之氣味あり

通一条之不塩梅ハ一ツハ為之歎

と云も餘り之天氣柄故と被存候

右ニ付愚按ニハ下劑ハ元之マ々ニ被

差置候方歎杯存候且ツ昨日ハ

腹之へらぬつかへもあり悪日ニ

御座候一身ハ扱置作物之ため

萬民之困苦ニ可相成と

不堪歎息昨夕杯ハ至而晴相ニて

喜居候處夜中之大雨午睡ハ不仕

早寢故歎ハツ半頃より目覚明ニ

達する迄不眠別而雨歎仕候

不湿物ハロフランゲツト是ニハ感心

今日ハ下江毛氈ヲ為敷候因り

天之咎も大體ニ御宥るしを

願処ニ御座候乍御面倒御葉

願上候頓首

六月六日

○

前半は、十兵衛から受け取ったお釣りの百文を葉箱に仕舞ったことや、七つ（十六時）頃三間市之進、花輪馨之進が来訪したことが記されている。いずれも公用人の職を辞して長岡に帰ってきている。また、刀の鑑定結果がはかばかしくなかったことにも触れている。後半は、今日も雨で退屈だが天気が良くなれば、川の

前半は、雨が降りじめじめした日が続いて、ため息が出てしまうなか、継之助は通じの塩梅がよくなる、痔の兆候が見られることを良運に相談している。後半は自分の体調はよくないにもかかわらず、この悪天候に

前件之事二而少し遅延  
相成候夜食前も三間

尋異候得共ウルサキ様二覚候ガ  
只今ハ通後且一条故

案多之中少し留置咄ヲ  
承り候外終日來客

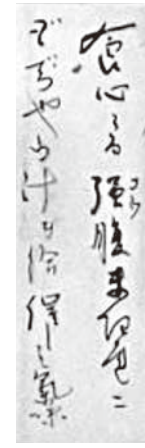
なし無用冗長之処  
多し必御答ハ不望候

只報告仕候而已頓首  
六月十六日夜

御同事 期安眠

小山様 河井拜

継之助は昼から腹痛に襲われ、痛みがさらに凄くなっている。夕食は「ドジョウ汁」を食べている。



その後三間市之進が訪ねてきて、藩主牧野忠恭が六月十二日に呼びだされ、長州征伐の旨が伝えられたこと、いよいよ公方（徳川家茂）様が長州征伐に出馬されるとのこと、殿様も御伴が命じられたという急報を飛脚が伝えてきたことを記してこれからどのような世の中になるか憂いている心境が読み取れる。

不連合之腹塩梅と見候床江入て  
直寝り朝迄目も不覚體も

不動様子夜食等も随分甘く  
食事之節汗も餘計出心持ハ

宜様候得共歩行ハ依然依然中少  
寝て居り身動しが餘程楽ニ

なり候様いくじもなき長文必不及  
御答雨か降ても御出か出来る歟

面白楽みニハ奉存候得共必  
御無理ハ御無用く鏝と目貫

用之ある事もあらん歎此者へ  
御返し願上候何事も拜眉

匆々頓首  
五月廿二日

長岡で、長雨が続くことについて、アジアの北方の霖雨（なが雨）に目を向けている。



世界の気候風土を継之助は学んでいることに着目したい。朝から武回庵、三間市之進らが来て、碁を楽しみ、遊び疲れて昼寝をした後も再び碁を指している。長く体調の不良が続き、気分が沈んでいたところ、友との交流により明るい気持ちになった喜びを素直に伝えている。その後は、通じや睡眠、食欲、歩行困難などの症状を良運に伝え、面会を待ち望んでいる。

淵など魚釣りなどをしたところと述べている。三島億二郎は魚釣りを好んだことが知られている。同じく

継之助も川の淵で魚釣りをしたいと記述している。当時長岡藩士は魚釣りを楽しんでたことがうかがえる。

ドジョウを釣ってたんぱく源にしていたのだろうか。

### ●五月二十八日の書状

小山様 河井拜

昨夕御返書之趣早速武江  
申遣彼を安心為致候

夕刻通し御座候夜三間來  
四鼓頃迄夫より眠りも不付終ニ  
九鼓ヲ聞二いたり候二晩如右  
病之徒寝様いたし度候乍

御六ヶ數御藥願上候頓首  
五月廿八日

前半では、昨日夕方に届いた良運からの手紙の内容をすぐに伝え武を安心させたことが書かれている。後半では、夜に三間市之進が訪ねてきて一〇時頃まで難しいことを話し合っている、そのため二時まで眠れなかったことが書かれている。なかなか寝付けない日が二晩も続いたのは病気のせいではないかと心配しているようだ。最後は、良運に体調を整え安眠するための薬の手配を依頼している。

より作物がとれないので多くの人が困っているのではないかと、人びとの暮らしを心配する姿を記していることに目が引かれる。また、カタカナで「フランゲット」の表記があり、長雨でも湿らないことに感心している様子が記されている。西洋の文物のすぐれた性能に注目している。最後は、良運に薬の処方依頼している。（中田）

### ○特別展示の感想

来館者の感想の一部を紹介します。

- ・人間味あふれる文章で、継之助の本心のわかる素晴らしいもの
  - ・自身の病状などがこんなにも赤裸々に綴られていて驚いた
  - ・継之助のぬくもりを感じた。生き残って維新政府に参加してほしかった
  - ・医者の人体に体の不調の泣き言をいうのはいつの時代も同じなのだと思った
  - ・河井が小山さんを信頼していることが伝わった
- 第1期から続けてご覧いただいた方もいました。今回の特別展示が継之助の人間像を深める機会となれば幸いです。（中田）



# 学生から見た継之助

京都産業大学  
松本ゼミの学びより

この度、当館を授業で訪問してくださった  
京都産業大学の松本和明先生に訪問のねら  
いと学生の感想を寄稿していただきました。

## はしがき

松本ゼミナールは、二〇一九年  
度に開設され、本年度で七年目と  
なる。かの流行り病が収まった後  
の二三年から長岡市での合宿研修  
をおこなっている。北越コーポ  
レーションや岩塚製菓等での工場  
見学とともに、河井継之助記念館  
での研鑽を恒例としている。継之  
助をはじめ、彼と関わる長岡人た  
ちの高き志や未来志向、旺盛な行  
動力、柔軟な対応力、剛健質朴な  
人格を学ぶことができる貴重な場  
であるからである。以下に参加者  
の感想文を掲げる。味読を乞いた  
い。

## 志、峠を越えて

三年 岡崎颯樹

河井継之助記念館の展示において、  
特に私の目を引いたのはガトリング  
砲の姿である。

藩政改革という難事業を完遂した  
継之助が、武装中立の理想を掲げ、  
長岡の地を守り抜くために備えた決  
意の象徴だろう。その傍らに佇む継  
之助像は、革靴を履き、右手に望遠  
鏡を携え、左手を刀の柄に添えてい

る。その凜とした佇まいからは、激  
動の幕末を俯瞰し、近代国家の姿を  
見据えた彼の深謀遠慮が窺える。

二階へ足を運べば、改革のために  
学を志し、西国へと峠を越えた継之  
助の遊歴が詳しく紹介されていた。  
遙か遠くを見据える継之助の瞳には、  
幕末の動乱を超えた長岡が、どのよ  
うに映っていたのだろうか。

## 河井継之助記念館を

### 見学させていたただいて

三年 西山陽翔

河井継之助記念館を見学させてい  
ただいて特に印象に残ったことが二  
つある。

第一は、記念館に置かれているガ  
トリング砲のレプリカである。かな  
り精巧に作られており、しかもしっ  
かり動かせるといところが印象深  
かった。

第二は、現場に出向くということ  
がいかに大切かということである。  
河井継之助像が右手に持っている望  
遠鏡は、色々な場所に直接出向いて、  
事物・人物の長所や短所、その要因  
や原因を見通していたことを象徴し  
ているものと教えていただいた。こ

の話聞いて、リーダーやマネー  
ジャーの能力として、現場に出向き、  
自分の目で直接見て、課題や真因を  
把握・認識することが必要不可欠で  
あると学ぶことができ、たいへん有  
益であった。

## 先見の士河井継之助を

### 訪ねて

四年 土島大知

河井継之助は越後長岡藩の家老と  
して藩政改革と軍制の近代化を推進  
した人物である。

備中松山藩にて藩政改革をおこ  
なった山田方谷に学び陽明学を修め  
た。「武装中立」を掲げ藩の存続を  
図るも明治新政府に受け入れられず、  
奥羽越列藩同盟に加盟して北越戊辰  
戦争で藩兵を率い、只見で最期を迎  
えた。

河井継之助記念館では河井の先見  
性を象徴するガトリング砲や遊学時  
の史料、司馬遼太郎『峠』の展示か  
ら継之助の現状の分析力と将来の予  
見力、藩政改革への情熱がひしひし  
と伝わり、死の間際に外山脩造に対  
して商魂を見込み「お前は商人にな  
れ」と遺した言葉が印象に残った。



松本ゼミの学生たち

## むすびに

近時の大学生の文章力は乏しく  
なるばかりで、もとよりゼミ指導  
教授たる小生の不徳の致すところ  
ではあるが、彼らの河井への「思い」  
ないし「想い」は伝わったかと思  
料する。継之助についての興味は  
汲めども尽きぬものであり、ゼミ  
生とともに学び続けていきたい。

自身の信念を貫き、藩のために尽  
力した不屈の姿勢はまさに「最後の  
サムライ」だろう。

# 開館十九周年記念講演会

令和七年十二月十四日開催（於・長岡グランドホテル）

## 杉本鉞子と武士の長岡

講演会を聴いて

十二月十四日、長岡グランドホテルに於いて、俳優・エッセイストの星野知子氏をお迎えし、開館十九周年記念講演会が開催されました。

演題は「杉本鉞子と武士の長岡」です。

四百五十余名の聴講者の皆さまは大変興味深く聴き入っていました。

（小林）



牧野家十七代目当主

牧野 忠昌

今回の講演で星野知子さんが『武士の娘』を熟読され、長岡藩の武士の規範や生活をよく勉強されていると思った。星野さんの解説で、稲垣平助の心の葛藤が聴衆にはよくわかったと思う。自分自身が武士の娘であることや城下町に生まれ育ったことの誇りが垣間見られ、謙虚な長岡人らしい素晴らしいお話であった。

河井継之助記念館友の会会長

星 貴

朝ドラ『ばけばけ』のモデル小泉八雲が日本の生活に馴染む努力をした様に、鉞子はアメリカでの生活に馴染もうとする中で長岡での暮らしを振り返り『武士の娘』を著し世に広めた。星野さんの仰る様に今よりもずっと生活習慣の違いの差が大きかった時代である。想像するだけでも鉞子の努力は凄まじい。改めて視線を変えて読み解く術を学べる有意義なひとときとなった。

河井継之助記念館友の会副会長

恩田 富太

星野知子さんから戴いた講演には杉本鉞子と「同郷」の親しみが感じられました。知子さんが幼少の頃、城下の風土を残した長岡の思い出を交えて語られる鉞子の心情にも、自然とリアリティをもって拝聴しました。折しもNHK連続テレビ小説『ばけばけ』でも、明治初期における『武士の娘』の境遇が描かれていますが、鉞子の物語を比べて楽しませてはいかがでしょう。

河井継之助記念館友の会副会長

渡辺 千雅

開館十九周年記念講演会で星野知子さんは、杉本鉞子『武士の娘』に込められた思いとして、時代に敗れた父・稲垣平助の、長岡藩士としての誇りと胸奥に秘めた無念を語りかけた。その言葉は、歴史の陰に置き去りにされた一人の武士の声を静かに呼び覚まし、河井継之助の志とも重なりながら、今を生きる私たちの心に深い余韻を残した。



上段左から：桜井観光企画課課長補佐、野澤観光企画課長、宮下幹事、佐藤ガイドボランティア、山田幹事、北澤観光企画課主事

中段左から：南波ガイドボランティア、小林ガイドボランティア、清水幹事、古屋ガイドボランティア、堤ガイドボランティア、高橋ガイドボランティア、中野ガイドボランティア、川上幹事、廣井幹事

下段左から：中田館長、牧野忠慈様、牧野美和子様、牧野忠昌顧問、星野知子様、星会長、渡辺副会長、恩田副会長、下田相談役

# 来館した子どもたちの声

当館では、市内外の多くの小中学校の皆さんにご来館いただいています。子どもたちの純粋でまっすぐな感想文から、心温まる一節を抜粋して皆さまにご紹介いたします。

## 小学校

●特に心に残ったことは、河井継之助はお城を諦めず何度も取り返そうとしたことです。取られて終わりじゃなくて何度も取り返そうとしたことが良かったです。

●私もし継之助だったら良運さん(藩医)に勉強を教えてもらいたいと思いました。これからは継之助のように勉強したいと思います。

●河井継之助は年上にいじめられても自分が正しいと思った事を主張する子で、私もそうなれるよう頑張りたいです。

●継之助が自ら火葬の支度をさせたことが印象に残りました。「後の長岡は他に任せる」という言葉に、「幸せ」の気持ちもあると思いました。

●「中立」という立場を選んだのに戊辰戦争に巻き込まれ、大切にしていた領民や藩、長岡がなくなり「残念な人」と思うこともありましたが、新政府の人でも外国に負けない強い国をつくり人々を救うことを目指していたので、どちらが勝ってもよかったのではないかと気づきました。

●お米が安いときに買い占めて、お米の値段を上げてから売ってお金にするのが投資家みたいで、その考え方に興味を持ちました。

●軍制改革、賄賂を止めさせる、贅沢を一掃する、免税制度の不正を止める、河税の廃止などを教えてもらって、河井継之助についてもっと知りたくなりました。

●藩全体が困難な状況にある中で時代の変化を読み取り、西洋の技術を取り入れたり、人材を能力で評価する姿勢に、現代にも通じるリーダーシップを感じました。

●河井継之助の「長岡のためににから人のために頑張ろうとする気持ちが大切だと思いました。

●河井継之助について特にすごいと思ったことが二つあります。一つ目は、上下関係、年齢に関係なく自分が正しいと思った事を貫き通す性格です。私も他人の意見に流されるのではなく自分の意見を大切にしたい

## 中学校

●二つ目は、武士や人々が安心して生活できるようにしたいという理想です。自分の事ではなく他の人の事についての理想で素敵だともいえました。

●長岡での学びを活かし、これからも平和について考えを深めていきます。八十里越は実際には八里ですが、それでも32キロ(フルマラソンレベル)の酷道であり、それを甲冑などを着たまま歩き抜いたというのは、もはや意地だなと思いました。

●自分の住んでいる場所だけではなく、もっと広く世界を見ることによって、狭い世界では得られなかった今まで見ることの出来ない新しいものを発見できると改めて感じました。

(小林)

## 令和7年度 学校関係見学人数 (5~12月)

No.	見学日	学校名	学年	見学人数
1	5/1	長岡聾学校	中学部	8
2	5/23	川崎小学校	6年	66
3	5/30	宮内小学校	6年	79
4	5/30	新町小学校	6年	24
5	6/18	中島小学校	6年	26
6	6/27	上越教育大学 附属中学校	2年	50
7	9/4	京都産業大学	—	5
8	9/5	阪之上小学校	5年	26
9	9/10	東中学校	1年	9
10	10/1	旭岡中学校	1年	50
11	10/2	前川小学校	6年	46
12	10/3	富尊亀小学校	6年1組	31
	10/9		6年3組	31
	10/15		6年2組	32
13	10/8	川崎東小学校	6年	58
14	10/8	明德高校 夜間部	2年	12
15	10/15	南中学校	1年	126
16	10/16	新潟大学附属 長岡小学校	6年	34
17	10/17	出雲崎高校	3年	34
18	10/22	神田小学校	6年	22
19	10/22	上川西小学校	6年	112
20	11/7	千手小学校	6年	49
21	11/19	柿小学校	6年	15
22	11/20	宮内中学校	1年	3
23	11/27	脇野町小学校	6年	40
24	11/28	小国小学校	6年	18
25	12/10	川崎小学校	5年	60
26	12/11	宮本小学校	5・6年	15
27	12/11	宮内中学校	3年	44
合計人数				1,125

## 遠方からの客人

大沼 雅宏さん(山形県長井市)

インタビュー 34



2025年12月4日

### ●来館のきっかけ

「峠」で河井継之助を知りました。大学時代を新潟市で過ごしたので、新潟には親近感を持っています。

●河井継之助について  
長岡に寄ると必ず河井継之助記念館を訪れ、今回で6回目の来館です。

●河井継之助から学んだこと  
坂本龍馬ほど有名ではないが、立派な人。失敗も含めて、生き方の参考になります。

●河井継之助から学んだこと  
西国遊歴で見聞を広げていたところが素晴らしいです。

●河井継之助を購入了理由は？  
単に知識を得るに止まらず、実践すること。

●河井継之助を購入了理由は？  
まず自分のために学び、後に社会に貢献できるようにしていくこと。

●6回も来館される理由は？  
ここ2年ほど、地元の米沢藩を学ばなから、古い本に興味が出てきたからです。小説に書かれていないことが学べます。

●6回も来館される理由は？  
その都度展示の内容が変わることもありますが、何よりこの場所自体に来ることを求めています。

●6回も来館される理由は？  
飽きず何度も観たいと思えるような記念館です。

# 河井継之助 没後百五十八年祭法要

九月二十八日、光輝山榮涼寺にて、河井継之助没後百五十八年祭法要が厳かに執り行われました。牧野家十八代牧野忠慈様、河井家八代当主河井弘安様と先代の奥様の惠美様、只見町交流推進課長、只見町観光公社社長、会津若松市

副市長、長岡市副市長、長岡藩士殉節顕彰会ほか、三十四名が参列し継之助を偲びました。

法要後、長岡グランドホテルにて「河井家を囲む会」を開催しました。牧野家十七代当主牧野忠昌様より乾杯のご挨拶をいただき、参加者は各々近況や継之助談議に花を咲かせ、和やかな会となりました。

(小林)



参列者の皆様と榮涼寺本堂前にて

## 河井継之助記念館 友の会について

会員の交流や情報交換を通して継之助について学び親しみ、記念館を応援する会です。

●会員数/正会員 486名 協賛 40名 小・中学生 2名 顧問 2名  
合計 530名

●特典/①入会時に徽章贈呈 ②友の会会報「峠」配布  
③交流研修旅行の案内・参加 ④催事案内・参加

●入会手続き/（入会金千円が必要となります）  
①申込書に入会金と会費を添えて、事務局へ持参。  
②申込書を事務局へ送り（郵送、FAX）、入会金と会費は銀行振込または郵便振込で納入。（手数料は本人負担となります）

会員募集中

●会費/※会計年度は3月31日まで  
・入会金/千円（新規入会時のみ）  
・年会費/①正会員/（ア）小中学生：500円（イ）高校生以上：2千円  
②協賛会員/一口5千円（法人の他、個人でも可）

### ●口座について

・加入者名/河井継之助記念館友の会  
・口座番号/郵便局 00560-9-96432  
長岡信用金庫本店営業部 普1032829  
第四北越銀行長岡本店営業部 普1764663  
大光銀行本店営業部 普3011256

※郵便局の場合は払込用紙が事務局にありますのでご利用ください。

●友の会事務局/河井継之助記念館

友の会ホームページアドレス

<https://tomonokai.tsuginosuke.net/>



## 新入会員ご紹介

(令和7年8月1日～令和8年1月31日まで)

中野 孝 新潟県長岡市

伊東 かほる 新潟県出雲崎町

木村 隆司 東京都世田谷区

高橋 昭男 新潟県長岡市

柳 久一 新潟県長岡市

横山 佳資 埼玉県さいたま市

原 弾 新潟県長岡市

川端 真里亜 大阪府池田市

以上8名（敬称略）

## 記念館近況報告

▼今年は開館20周年を迎えます。あわせて特別展示の内容を検討中です。ご期待ください！

▼継之助が越えた八十里越（国道289号）開通が今秋に予定されています。

▼熊本大学大学院の中田准教授より「継之助の硯」の化学分析を行ってもらうことになりました。産地が唐（中国）である可能性が示されれば、継之助の新たな一面が見つかるかもしれません。

▼お庭の木が大雪のため折れてしまいました。



河井継之助の硯



## 編集後記

令和9年度の大河ドラマは「逆賊の幕臣」に決まりました。主役は小栗上野介（忠順）です。小栗は、幕末江戸幕府の勘定奉行・外国奉行・江戸町奉行等を歴任します。横須賀製鉄所の建設は特に有名な業績です。戊辰戦争鳥羽・伏見の戦い後は徹底抗戦を主張しましたが、恭順路線を取る徳川慶喜・勝海舟に退けられます。この小栗は生年・没年共、河井継之助と一緒です。小栗と河井は同じ時代を、同じ精神を持って生きた人物です。（山田明）